

1. 授業のねらい・概要

世界最大の経済規模を持つ米国は、歴史こそ長くはないが、18世紀末の独立以来、強いフロンティア精神の下、急激に経済力を伸ばした結果、自由主義と市場経済を標榜しつつ、グローバル化によって、その経済が大いに支えられていた側面は否定できない。他方、2017年1月に就任したドナルド・トランプ新大統領は「米国第一（America first）」を唱え、米国の国益を徹底的に追求する政策方針を打ち出す中、北米自由貿易協定（NAFTA）の見直しや環太平洋パートナーシップ協定（TPP）の離脱、イスラム圏諸国の入国禁止措置やメキシコ国境での壁建設など、貿易や移民を制限する動きを強め、これまで進めてきたグローバル化とはむしろ相反するような保護主義的な政策を志向している。本講義では、こうした最近の動向を踏まえ、これまで米国経済を支えてきたグローバル化を再考しながら、その歴史、産業構造、政策理念などを理解することを主眼とする。その上で、可能な限り、トランプ政権がグローバル化とは相反する動きを見せるようになった根本的な要因を模索したい。

2. 授業の進め方

学生諸君が興味を持ってくれるような講義とするべく、映像視聴を取り入れたり、担当教員の実務・海外経験を話に交えたりするなどの工夫を凝らす。さらに、より主体的な姿勢がより良い理解に繋がるので、日頃から、メディアで世界の経済・社会情勢をフォローしておくことを強く薦める。また、数回、受講生に小課題を課すことで、理解度を確認することとしたい。

3. 授業計画

1. イントロダクション	9. 金融システムの新たな展開①（グローバル化）
2. 米国の民主主義と市場経済のモデル	10. 金融システムの新たな展開②（金融規制）
3. 米国経済の構造①（労働編成）	11. 分権的な小さな政府と民間福祉①（政策理念）
4. 米国経済の構造②（貿易構造）	12. 分権的な小さな政府と民間福祉②（オバマケア）
5. 自動車産業の衰退と失業問題①（衰退の要因）	13. 米国モデルの再考とトランプ政権の展望
6. 自動車産業の衰退と失業問題②（復活に向けて）	14. 映像視聴（トランプ大統領の演説）
7. IT産業の成長と国際展開①（IT革命）	15. 本講義の総括
8. IT産業の成長と国際展開②（国際展開と国際分業）	

4. 到達目標

歴史、経済、社会などの幅広い観点から、米国の動向を詳細に理解することに留まらず、その世界的な位置付けも確認し、グローバル化を捉える複眼的思考を養うことを目標とする。

5. 準備学修に必要な時間、またはそれに準じる程度の具体的な学修内容

教科書の事前熟読（30～40分程度）。

6. 成績評価の方法・基準

平常点（30%）及び期末試験（70%）にて、総合的に評価する。

7. テキスト・参考文献

教科書は、渋谷博史・樋口均・埴武郎（編）『グローバル化を読みとく2：アメリカ経済とグローバル化』（学文社、1700円＋税）を用い、これを基に講義を進めるので、受講生は必ず購入すること。そのほか、補足資料を随時配布する。参考文献は、講義の中で適宜紹介していく。

8. 受講上の留意事項

「グローバル化と国際社会 A・B」を履修していることが望ましいが、必須条件ではない。講義中は、私語は慎み、解説を聞くだけでなく、補足情報もノートすること。なお、原則として、平常点が著しく良くない場合は、期末試験を受験できないことがある。また、留学生においては、経済学の基礎文献を読みこなす程度の日本語能力が求められる。